閉校になった母校から「練習改革」発信　後押し1000万円…球都に誕生の“最新鋭ラボ”

公開日：2024.03.08　更新日：2024.04.05　「体験談を教えて!」　文：笠脇広大 / Hirohisa Miyawaki

桐生市に誕生した野球ラボで実習する群馬ダイヤモンドペガサス・荻野恭大投手【写真：笠脇広大】

群馬・桐生市に「球都桐生野球ラボ」開設…老若男女使える高性能機器で「故郷元気に」

「球都（きゅうと）」を名乗る群馬県桐生市に、画期的な野球施設が誕生した。一般社団法人・桐生青スポーツアカデミーが、2021年3月31日限りで閉校となった県立桐生南高の施設を活用し、最新鋭の測定機器をそろえて開設した「球都桐生野球ラボ」だ。旅館り役の荒木重雄代表理事は、かつて千葉ロッテマリーンズの事業本部長を務めた経験があり、桐生南高野球のOBでもある。開設に至るまでの経緯や思いを聞いた。

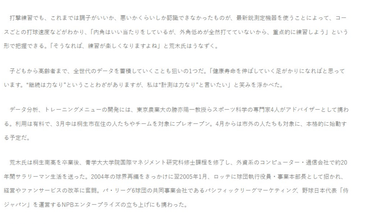
「ウクウク感と、どうやって本当の意味で日本を代表するような施設にしていくかという使命感を、同時に感じています。今月2日に行われたオープニングセレモニーで、荒木氏は謙虚を少し広結させて語った。

「球都桐生野球ラボ」は、クラウドファンディングで集めた寄付金1000万円で、桐生高跡地の柔道・卓球場を、室内野球練習場へリフォーム。ここに桐生市からの補助金820万円で、最新鋭測定機器を配備した施設だ。高速度レーダーで球速、回転数、回転軸、回転効率、変化量、リリースの位置などを測定する「ラプソード」、バットに装着したセンサーでスイングスピード、スイングの軌道などを測定する「ブラスト」、脚に着けたセンサーで投球時にかかる負荷を可視化する「パルススロー」、筋肉量、体脂肪率などを測定し、栄養評価も行える「インボディ」などを備えている。

荒木氏は「たとえば、ラプソードはメジャーリーグ全30球団、日本のプロ野球でも12球団中11球団が備えています。高いレベルの人たちが使う機器というイメージがありますが、われわれの施設では老若男女にご利用いただけます」と説明。さらに、次のように強調した。

「掲げるテーマは“練習改革”です。根性、気合も大事ですが、われわれは練習を楽しくしたい。これまでのように“なんとなく頑張る”のではなく、自分の力を全て“見える化”し、具体的な目標を立て、現状と目標のギャップを数値で把握した上で、トレーニングを積み重ねて進めていく。このサイクルをどんどん回すことによって、練習が楽しくなっていくのです」

「計測は力なり」…子どもから高齢者まで全世代のデータ蓄積へ


「球都桐生野球ラボ」開設の会議で司会となった荒木重雄代表理事【写真：笠脇広大】

確かに、プロ野球の世界などでは最近、全てが数値化され、「球離れが早い」「キレがいい」「伸びがある」といった抽象的な表現は“無効”になりつつある。それを、この施設を使って若男女にむけていく考えだ。

打撃練習でも、これまでは勘でがいいか、悪いかくらいしか認識できなかったのが、最新鋭測定機器を使うことによって、コースごとの打球速度などがわかり、「内角はいい当たりをしているが、外角低めが全然打てていないから、重点的に練習しよう」という形で把握できる。「そうなれば、練習が楽しくなりますよね」と荒木氏はうなずく。

子どもから高齢者まで、全世代のデータを蓄積していくことも狙いのひとつだ。「健康寿命を伸ばしていく足がかりになればと思っています。“絶対はない”ということがありますが、私は“計測は力なり”と言いたい」と笑みを浮かべた。

データ分析、トレーニングメニューの開発には、東京農業大の勝亦陽一教授らスポーツ科学の専門家もがアドバイザーとして携わる。利用は毎年で、3月中は桐生市在住の人たちやチームを対象にプレオープン。4月からは市外の人たちも対象に、本格的に始動する予定だ。

荒木氏は桐生高を卒業後、青学大大学院国際マネジメント研究科修士課程を修了し、外資系のコンピューター・通信会社で約20年間サラリーマン生活を送った。2004年の球界再編をきっかけに翌2005年1月、ロッテに球団執行役員・事業本部長として招かれ、経営やファンサービスの改革に奮闘。パ・リーグ6球団の共同事業会社であるパシフィックリーグマーケティング、野球団本代表「待ジャパン」を運営するNPBエンタープライズの立ち上げにも携わった。

2009年限りで退団し、独立。時年流響を迎えたのを機に、「生まれ故郷を元気にしたいという気持ちで」桐生市に生活拠点を移した。閉校となった母校の跡地に“夢の舞”を開き、感無量の表情だ。

もともと桐生市は野球が盛んな地域で「球都」を標榜。古豪の桐生高は春夏合わせて26回の甲子園出場、2回の選抜大会準優勝を誇り、桐生第一は1999年の夏に全国制覇を成し遂げた。2022年には、開会合わせで9月10日を「球都の日」と制定している。

「この野球ラボで行うことを“球都桐生モデル”として、野球界、さらには広くスポーツ界へ発信していきたい」と語る荒木氏のチャレンジは、いまはまったばかりだ。

【実際の動画】140キロ台の“姿快変化球”で実演　「球都桐生」にズラリそろった最新鋭機器

勝亦陽一教授も参加…無料登録で指導・育成動画200本以上が見放題

少年育成の第一人者である勝亦陽一教授も参加する野球育成技術向上プログラム「TURNING POINT」（ターニングポイント）では、無料登録だけでも200本以上の指導・育成動画が見放題。First-Pitchと連動し、小・中学生の実況年代の現場を熟知した指導者が、最先端の理論などもとにして確実に上達する独自の練習法・考え方を紹介しています。

■専門家50人以上が参画「TURNING POINT」とは？

■TURNING POINTへの無料登録はこちら

https://id.creative2.co.jp/entry

少年野球に関する悩み・課題を検索

トレンドワード

硬式アップ | キャッチボール | 縦振り | レベルスイング | マクドナルド・トーナメント | NPBジュニアトーナメント | 清瀬元気 | 生島琢宏

PREV
前の記事

「良いケンカはどんどんせいや!」 ノーサインの手腕突出…岡山にいる“最先端監督”の魅力
指導法を知りたい　2025.4.21

NEXT
次の記事

先発落ちに打撃不振…NPBジュニア入りも「油断しないで」 逸材小学生に投げる“技術体験”
指導法を知りたい　2025.6.10

人気の記事　最新記事

ゴの現状の位置は6位。上、高くゆ？ 大阪桐蔭3年投手一足早く北京に乗ぶる“秘密”
大会前の記者ゲーム・ボーンゲーのアンバイ ゲーム会社ルーツ、「ゴ」の現状の位置は6位。ゴは、ゆ？ 高くゆ？ 大阪桐蔭3年投手一足早く北京に乗ぶる“秘密”

球速アップに必要な「40度の壁」、米国流トレーナ直伝・世界レ可視化“明恵の金属器具”
当ルアーフィッシュ量ボ「ルアー量」、地元「ルアー」、「ルアー」、「ルアー」、